

# JSL児童への書く指導における支援者のスキャフォールディングと教育観 —読書感想文を書く活動の分析・考察をもとに—

佐々木ちひろ(名古屋大学大学院生)

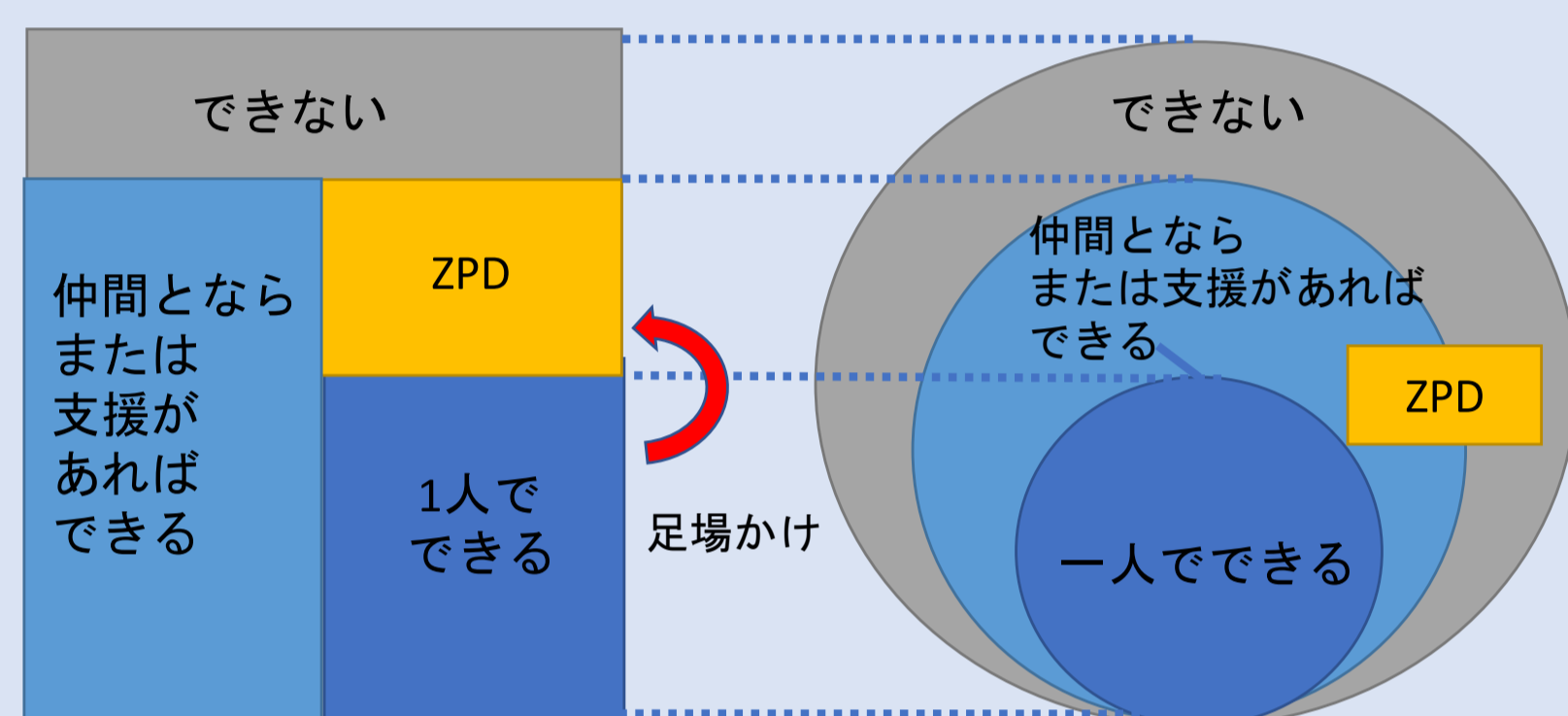
## 1. 研究目的

- (1) JSL児童への書く支援実践において、支援者がどのようなスキャフォールディングを行い、子どもの書く活動を促進しているのかを検証する
- (2) 活動の中での支援者のスキャフォールディングから支援者の教育観を再考する

## スキャフォールディング

子どもが課題を達成したり新しいことを理解したりする時に教師が行う一時的で体系的な手助け (Hammond,2001)

## 発達の最近接領域 [ZPD] (ヴィゴツキー、1967)



## 2. 研究の概要

### 2.1. 研究協力者Y

- 2019年3月現在小6
- 2014年にフィリピンから来日
- 来日時のYの日本語力はゼロ初級
- Yの日本語支援を発表者が担当
- 2017年4月～8月、在宅での学習支援も兼ねた日本語支援を実施

### 2.2. 活動の概要

- 読書感想文を書く活動
- テキスト：「注文の多い料理店」(宮沢賢治原作) 斎藤孝(2011)『斎藤孝の親子で読む国語教科書5年生』
  - 二人で一段落ずつ交互に音読。わからないことばを確認しながら、時々感想も言い合いながら読み進める
  - 発表者と作品の感想を話し合いながら、Yが原稿用紙に読書感想文を書く

### 2.3. 研究方法

- 発表者=支援者
- 分析データ：読書感想文を書く活動を録画したものを、ことばだけでなく動作も含めて詳細に書き起こした文字化資料

### 2.4. 分析の手順

- ①やりとりをスキャフォールディングごとに区切る
- ②コードを割り当てていく
- ③カテゴリ化する

## 3. 分析と考察

### 3.1. スキャフォールディング

- ①子どもに質問をして書く内容を引き出す
- ②子どもがうまく言えないことを代わりにことばにして提示する
- ③子どもが次に書くべきことを示唆する
- ④書き間違いや正しい書き方を示唆する

### スキャフォールディングの例

- 子どもに質問をして書く内容を引き出す  
C:なんで、この、((教科書の文章を指でなぞりながら))さっきの二人と菜っ葉、を上手く取り合わせて、おさ、お皿に並べるのが、怖いのか  
(3.0)  
Y:それ、菜っ葉って、菜っ葉って食べ物やろ?  
C:うん。  
Y:えっとな、食べ物だしー、なんか、あたしたち、食べ、な菜っ葉は食べ物なんだけど、なんか、わたしたちもさー、うまく取り合わせるって、どういことって、なんか、びっくりするじゃん。
- 子どもがうまく言えないことを代わりにことばにして提示する  
Y:((書いている途中で手を止めて))なんか、うまく、取り合わせる、ら、え?  
C:人間を取り合わせるっていうことー  
Y:うん。((続きを書く))
- 子どもが次に書くべきことを示唆する  
Y:((書いている途中で手を止める))  
C:んー。  
Y:これだけしか書けないー。  
C:じゃあね、最後...((教科書のページをめくる))  
Y:あー、最後も書かなー。
- 書き間違いや正しい書き方を示唆する  
C:((Yが書いたところを指でなぞりながら))ところ、と、ところが  
Y:ところがとくにか。  
C:うん。

### 書く活動の促進

- (1) 子どもの内言を外言化して書くことを引き出す
- (2) 子どもが自分で次に書くべきことを考えたり間違いを見つけて正しく書いたりできるように導く

### 3.2. 教育観

**意識している教育観**  
子どもが主体的に読書感想文を書く活動に取り組み、自分の力で書けるように支援しようと考えている



**意識していなかった教育観**  
発表者の中に子どもが書くべき読書感想文の枠組みがあり、その中に子どもを入れることで、その枠組みを再生産しようとしている

引用文献  
ヴィゴツキー (Vygotsky, L.S.) (柴田義松訳) (1967) 『思考と言語』 明治図書  
Hammond, J. (2001) Scaffolding and language. In J. Hammond (Ed.), *Scaffolding: teaching and learning in language and literacy education*. Sydney: Primary English Teaching Association.